

## 西と東 北と南(二)

加藤淳平

(二)

西暦一九八九年の年到来し、ヨーロッパに於ては、それより一兩年を掛けて、「東西冷戦」終結す。紛ふかた無き、「西」の「東」に對する勝利なりき。

東ヨーロッパ諸國、ロシアの支配より脱し、黨時のロシアの「ソヴィエト聯邦」、亦崩壊して、「同聯邦」、ロシアを初めとする構成國に、分解せるのみか、何らの構成國に於ても、共産黨支配は終れり。

レーニン・スターリン以來の「ソヴィエト聯邦」なる國、歴史の彼方に消え去りぬ。

斯くてヨーロッパのみを世界と見る一部の西ヨーロッパ人ら、之にて、自分らは未來永劫に互つて勝利し、今後は西ヨーロッパが價值觀、世界全般に尊重せられむとて、狂喜す。西ヨーロッパ人らが狂喜、極に達し、度を越えたれば、アメリカ人ら、「ユーロフォーリー」(強ひて譯せば『莫迦ヨーロッパ』)なる新語を創りて、揶揄せり。

西の勝利の實現せるは、アメリカにして、西ヨーロッパならざりければ、西ヨーロッパ人らが、度を失したる喜びの感情の昂揚、及びアメリカ人らが冷靜と苦笑と揶揄、見るに愉快なりしに非ずや。

此の時狂喜したるは、西ヨーロッパ人のみならず。平素より、西ヨーロッパの事象・學問こそ、東アジアの國なる日本が範例なれと信じ込み、本來さして關聯有るべしとも思はれざる西ヨーロッパの事象もて、日本の事象を理解せんとする、日本「知識人」が一部、亦然りき。

日本の「知識人」にはあらざりしかど、それが影響を強く受けたと覺しき一日系アメリカ人、ヨーロッパ「東西冷戦」終結もて、「世界は終りぬ!？」と、極めつけたること笑止なれ。

「東西冷戦」終結なるものは、日本より見れば、地球の反対側なるヨーロッパを中心に、起りたる事象に過ぎず。現に東アジアの大國たる中國よりすれば、「冷戦」の終結せざるまま、「米中戦争」へと續きたるべし。「冷戦」期間を通じ、中立の立場を堅持したる、今一つのアジアの大國インドも、それが「終結」により、政策を變更せりとは見えざりき。

我ら日本の國人の、西ヨーロッパ人が狂喜の態に影響せられしは、我ら自身、ヨーロッパ乃至西ヨーロッパ過大視の、世界を見る眼を狂はしめたる嫌ひ、無かりしや。

(令和四年十月二日受附)